

専門学校及び大学の部

優良賞

「イチャリバ観光」

沖縄国際大学 1 年次 真喜志 彩乃

沖縄県は、日本ではトップクラスに入る観光地です。私の家から一番近い観光名所の国際通りも、いつもたくさんの観光客や修学旅行生で賑わっています。もちろん、観光名所は国際通りだけではありません。世界一大きい水族館にギネス登録された美ら海水族館、曾て琉球王国の王が暮らしていた世界遺産の首里城、ジュゴンの住む美しい海など、人気の観光スポットはたくさんあります。この様に、沖縄は文化や自然に恵まれ「観光地になるべくしてなった」と言っても過言ではない環境です。

しかし、私達はその元々ある物や現状に甘んじているだけで良いのでしょうか？もちろん、観光関係の仕事に携わる人達は、新しい観光ツアーを企画したり、お土産の新商品開発したり日々客のニーズに合わせて努力をしていると思いますが、去年の福島原発を切っ掛けに外国人客の減少が目立ち日本中の観光業に影響が出ています。この現状を私たち沖縄県民は、どう受けとめて何を考えるべきなのでしょうか？

果たして、観光とは本当に観光関係の仕事をしている人だけの問題なのでしょうか？私の答えは「ノー」です。観光と聞くと、一般のサラリーマンや学生、コンビニの店員など観光の仕事をしていない人には無縁のように感じますが、沖縄の経済の中心は観光業です。関係ないわけがありません。観光客が増えることによって、より多くの人々が、より多くの観光消費額を使えば、お金の循環が良くなり、経済が潤います。そうすれば、直接の収入には繋がらなくても、県に入るお金が増えることで、間接的には沖縄の誰もが観光に関わることになり、

観光客が増える事は県民の誰もが利益になります。だから、沖縄に住む我々県民は観光地である事を意識して行動しなくてはなりません。

また、沖縄県全体では、今の観光問題について色々な側面から、さまざまな立場の人が考えなければなりません。例えば、天気に左右されないエンターテインメントの設置や外国人観光客に沖縄の安全性を理解してもらう為の企画や新しいサービスの導入。

そして、観光業以外の人々の協力も必要不可欠になります。しかし、「協力」と言っても、どう関わっていいのかわからないものです。では、他の観光地はどのように県全体で観光業に力を入れているのでしょうか？例えば、文化的建造物の多い、まさに「和」を提供している京都。京都は、よりリアリティーな昔ながらの古い町並を観光客に提供するため、歴史のある場所や建物付近では、電柱や電線をあまり目立たない様に工夫して設置しています。電柱や電線を管理するのは、もちろん電気会社。しかし、電気会社と観光では一見、接点がなさそうですが、京都全体が観光地という意識を持っているからこそその気配りです。そして、その努力が京都の魅力になり毎年多くの外国人観光客が京都に行くのでしょ

う。沖縄も、この取り組み自体を真似するのではなく、この精神、京都全体の心がけを見習いたいです。例えば、沖縄では自然の豊さを売りにしているので、その環境を守る為に「自然を大切にす

る」観光客に少しでも気持ちよく観光をして貰う為「ゴミを拾う」「車を使わずに公共の乗り物を利用する」など一般の人でも出来る事が沢山あります。この様な小さい活動でも、観光客のリピート率に貢献出来るでしょう。そして、これらの活動は観光客の為だけではなく自分達の生活もより豊かになり、地球温暖化を止める事にも繋がります。

そして、沖縄の最も誇れる物と言え

ば「県民の心の温かさ」です。沖縄には「イチャリバチョーデー」出会えば皆兄弟。と言う意味の方言があります。私はこれが出合いを大切にす

る沖縄の文化の原点だと思います。時代は流れ方言

を使える若者が減っても、その心は昔と変わらないと私は思っています。例えば、修学旅行に来る中学生や高校生がバスから同じくらいの年代の子を見かけるとは手を振る光景。沖縄ではよく見る光景ですが、私が修学旅行で内地に行った時は、地元の子は人見知りなのか、あまり手を振り返して貰えませんでした。それに比べ沖縄の子は、手を振られると誰一人嫌がらずに必ず笑顔で手を振り返しています。

更に、以前友人が待ち合わせの時間に遅れて来た事があり、その理由を聞くと、外国人観光客に地図を見せられ道を聞かれたが、場所は分かるのに言葉がまったく通じなくて「カムヒアー」の一言だけを言って、待ち合わせ場所と真逆のその目的地まで案内したと言うのです。

この様に、沖縄の人はホスピタリティー溢れる対応で観光客を持って成すイチャリバチャョーデー精神が昔から引き継がれていることが分かります。

もちろん、県民の全員が全員そういう訳ではありません。中には、観光客と関わるのを嫌がる人や面倒くさがる人もいます。しかしだからこそ、今、県民一人ひとりが観光地としての意識を持つ事で「来て良かった」「また来たい」と一度来た観光客をリピーターにする事が出来るチャンスです。これから、もっと多くの人がイチャリバ精神で観光客を迎える事で観光地として発展すれば、沖縄の経済的上昇と共に、沖縄の良さを多くの人に知って貰う事が出来ます。また、今、沖縄の抱える基地問題に対しても日本中、そして世界中の人に伝える事ができ、考えて貰えるチャンスになります。

だから、沖縄県全体の問題として観光について考えて欲しいです。そして、個人でも出来る小さな観光活動をイチャリバチャョーデー精神を持って取り組んで貰いたいです。

観光とは、風景や食文化に触れる事だけではなく、県の文化、その地に住んでいる人の考え方や精神を知る事も観光に含まれると私は考えます。

そして、その地で体験した事や学んだ事が観光客にとって価値の有る物だっ

たかどうかが観光の質なので、その質を上げる為にも私達沖縄県民は、イチャリバチョーデーを大切に、イチャリバ観光を提供するべきではないでしょうか。